

2018.10.26



300万部。これは、1980年代にベストセラーとなった『積木くずし』の親と子の二百日戦争の売上部数です。

現在は3万部を超えればベストセラーと言われるのですから、そのインパクトはいかばかりだったでしょうか。この本の著者であった俳優の穂積隆信さんが10月19日に亡くなりました。享年87。死因は胆のうがんでした。

穂積さんの娘、『積木くずし』のモデルだった由香里さんは2003年に持病を悪化させて35歳で急死されています。由香里さんの母親で、穂積さんの前妻である女性もその2年前に自死。積木は、元には戻らなかったのです。

子供に先立たれた「逆縁」の人は、私の在宅患者さんにも何

### ⑦ 俳優 穂積隆信



過酷な人生から逃げなかつた

人かおられます。その多くが、私のせいで死なせてしまった」と深い悲しみを背負いながら旅立たれます。

長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東大第2内科入局。1995年、大阪大長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る総合診療を目指す。」近著「薬のやめどきはいずれもベストセラー。西国際大学客員教授。

穂積さんには、本がベストセラーになったせいで、自ら家族を壊してしまったという痛恨の思いがありました。「私の人生は積木くずしに始まり、積木くずしに終わった」とお元気な頃に発言されています。

いほどの過酷な運命：しかし穂積さんは人生から逃げませんでした。トラブルの元となった借金を、80歳を超えても仕事を返して返済し続けました。そして胆のうがんが発見されたのは今年8月のこと。

さらにながなが進行し、胆管内で胆汁の流れが悪くなると、目や皮膚が黄色くなる黄疸（おうだん）が現れます。黄疸とともに皮膚のかゆみ、尿の色が濃くなる、便が白っぽくなるなどの症状も加わってきます。

穂積さんも黄疸に気が付いて病院に行き、胆のうがんと診断されたとのことですから、なかなかええ。ご本人は積極的な治療は望まず、「最期は静かに逝きたい。遺体は（医学発展のため）献体してほしい」と希望されました。

医療者は、献体された方々のおかげで解剖実習を行うことができ、人体の仕組みを学びます。医学には「屍（し）は活ける師なり」という教えもあるほどです。穂積さんがどんな想いで献体を希望されたのかは、わかりません。しかし、娘さんのように若くして亡くなる人を一人でも減らしたいという想いが込められている気がします。親とは、わが子をなくした後もなお、愛情という名の積み木を積んでいくのです。